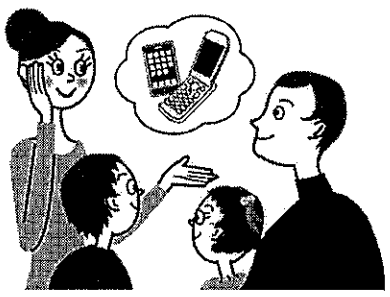
文部科学省委託事業「ケータイモラルキャラバン隊」京都市PTA連絡協議会研修会

子どものケータイ！どう向き合う？



私たちの生活に欠かせないものとなった携帯電話（以下ケータイ）。ここ数年は多機能化が進みインターネット（以下ネット）に接続して幅広い使い方をすることが当たり前になりました。一方でネットを通じて子どもたちが事件や犯罪に巻き込まれるなど、その弊害も指摘されています。子どもたちが安全にネットを利用できる環境づくりのため京都市PTA連絡協議会は人づくり21世紀委員会や文部科学省等と連携し、「子どものケータイ！どう向き合う」をテーマに、12月10日きらっとプラザ京都産業会館で研修会を実施しました。

主催：京都市PTA連絡協議会、人づくり21世紀委員会、京都市地域生徒指導連合会、文部科学省、メディア開発綜研　共催：京都市教育委員会　協力：安心ネットづくり促進協議会　広告

この冬休み、親子で一緒に話し合ってみよう！

あいさつ　取り組み説明

長屋博久氏
京都市PTA連絡協議会 会長

ケータイは近年、多彩な機能が加えられ便利になった反面、子どもに対する危険性も叫ばれています。京都市では平成23年3月「子どもを共に育む京都市民憲章の実践の推進に関する条例」を制定、子どもたちを情報過多時代から守る保護者や大人の責任を示しています。今回の研修会で、子どもたちにケータイは必要なのか、将来を見据えて今の時点でどのような使い方を子どもたちに教えるか、を学んでいただければ幸いです。平成24年8月には第60回日本PTA全国研究大会が京都で開催されます。大会では、本日の内容、ケータイのフィルタリング義務化を求めた署名活動など、これまでの取り組みも発信していきたいと思います。

文部科学省説明　「ケータイモラル、情報等に関する小学校・中学校での取り組み」

勝山浩司氏　文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課 課長

平成22年度全国学力・学習状況調査によると、小学6年生で約30%、中学3年生になると約60%がケータイを持っていることが明らかになりました。パソコンやケータイを使い、青少年を対象にしたいじめや、わいせつ事案、金銭トラブルなどが多発しています。ちなみに文部科学省では、ケータイの原則持ち込み禁止を全国の小中学校に通達し、災害時や登下校時の安全確保などの例外的な持ち込みについては教員や保護者の判断に委ねています。

国は青少年の健全なネット活用環境を整えることを目的として、平成21年に「青少年が安全に安心してインターネットを利用できる環境の整備等に関する法律」を策定、教職員や販売業者、保護者の自主的な取り組みを政府が支援することとしております。

ある調査によると、幼少時代に自然体験を重ねた人ほど、他人への思いやりやモラルが高い傾向があるとの結果が出ています。文部科学省では、「バーチャルよりリアルに、1人より集団で、家遊びより外遊び」を合言葉に、保護者も含めて、子どもたちの自然体験機会を増やすよう努めています。ネットの便利さは享受しつつ、保護者、青少年共に節度あるケータイの使い方を身につけていただけると幸いです。

講演　「そうか！なるほど！子どもたちとケータイ」

尾花紀子氏　ネット教育アナリスト

「ケータイを持たせるなら何歳から？」これは、保護者の方からのよくある質問です。でも、年齢を判断基準にするのは大間違い、与える時期は個人差があっていいのです。お子さんが「みんな持っている」と欲しがったら、みんなとは誰なのか、何のために持っているのか、どう使っているのかを聞いてみましょう。なぜ必要なのか、自分の言葉で説明できないうちは時期尚早。子どもの成長や生活環境をしっかり考え、タイミングを見極めるのは保護者の役割です。

持たせると判断したら、次は機種選び。初めて与えるケータイは、余分な機能を制限しましょう。一般のケータイでもネット接続を無効にできますし、元々機能限定してある日本PTA全国協議会推奨機種を選ぶのもいいですね。

大人の勘違いを正して、子どもとじっくり向き合おう

購入直後は、保護者が管理して必要なときに貸し出す方法がおすすめです。外出時に貸すだけでなく、家でもリビングなどで充電し、着信があったら「○○さんから電話（メール）よ」と声をかけて渡すという、固定電話感覚で使用します。子どもの友達関係や使い方を把握でき、一緒に考える機会も増える上、使用後は充電器に戻す習慣がつくため依存も防いでくれます。親子でルールを決め、マナーやモラルを教えながら、安全に正しく賢く使える子に育てましょう。

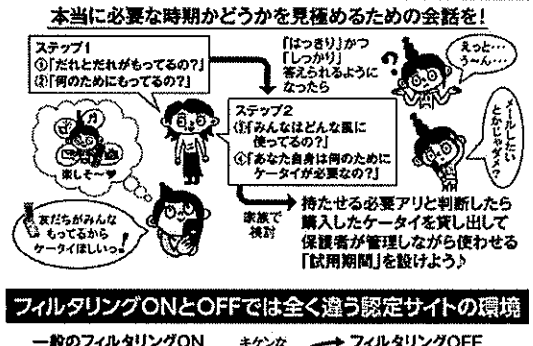
使用者が18歳未満の場合、フィルタリング（閲覧制限）をかけての販売が法律で義務づけられています。保護者が依頼しない限り解除されませんが、安心して放っておくのは危険。窮屈すぎる制限は、パソコンや友達のケータイを使うなど別の手段に走らせます。フィルタリング設定は数段階あるので、成長に合わせて調整してあげましょう。ただし、むやみに解除してはダメ。ネットに起因する犯罪の被害児童のケータイは、9割以上がフィルタリング未設定。EMA認定サイト（18歳未満に適切な利用環境を提供しているサイト）なら安全だと勘違いしている人が多いのですが、認定サイトでもフィルタリングがオフであれば大人と同じ環境につながってしまいます。ですから、子どもに貸すことがあるなら、大人のケータイにもフィルタリングを忘れずに。

スマートフォン（多機能携帯電話）は、家庭用WiFiや、駅やファストフード店などの公衆無線LANで接続した場合、通常のフィルタリングが効きません。別途、専用のフィルタリング設定が必要です。無線LANは、小型ゲーム機や音楽プレイヤーでもネット接続が可能。子どもたちはそれをよく知っています。ケータイさえ持たせなければ大丈夫という古い考えを捨て、持たせる・持たせないにかかわらず、ネットの使い方をしっかり学ばせることを考えましょう。

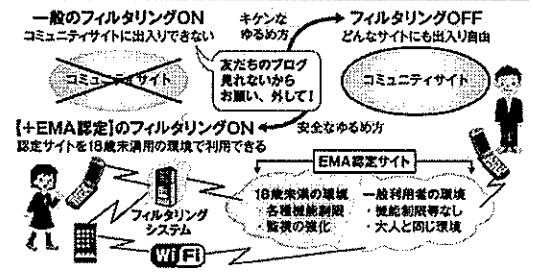
そこで、気をつけたいこと。ケータイの使い方を叱る側が子どもの前で使い放題では、説得力ゼロ。仕事を口実に食事中に通話やメールをしていませんか。優先席付近でメールチェックをしていませんか。まず、大人が子どものよいお手本となるよう心掛けましょう。確かな知識を身につけ、安全な環境を整え、正しい使い方へ導いていけるようにみんなで頑張りましょう。

ケータイを持たせるタイミングの判断方法と与え方

本当に必要な時期かどうかを見極めるための会話を！



フィルタリングONとOFFでは全く違う認定サイトの環境



「尾花氏講演資料より」

パネル・ディスカッション　子どものケータイ！どう向き合う？

尾花紀子氏　ネット教育アナリスト
勝山浩司氏　文部科学省 スポーツ・青少年局 青少年課 課長
富樫一貴氏　京都市小学校PTA連絡協議会 会長

富樫　京都市小学校PTA連絡協議会では、クリスマスプレゼントやお年玉代わりにケータイを与えるのはやめましょうと呼び掛けてきました。持たせる前に、ケータイの有用性・危険性について親子でしっかり話し合い、理解を深めてほしいからです。

世の中はスマートフォンが主流になってきました。ネットに接続できるのは、パソコンやケータイだけではありません。私たち親世代は理解が追いつかないというのが正直なところです。

曽我　ケータイは道具です。与えるだけでなく、危険性を説明し、賢く使うための教育が必要でしょう。もちろん、与えないという選択肢もあります。うちの子には高校生になるまで持たせませんでした。ルールは家庭ごとにあって当然ですし、子どもには、互いのルールを尊重することを学ぶ、よい機会になります。

勝山　親は約束させたつもりでも、子どもには伝わっていないことがあります。文科省では「ちょっと待って！はじめてのケータイ」というリーフレットを作成し、全国の小学6年生に配布しています。利用時間や禁止事項など、子どもと一緒に相談しながらルールを決め、書き込めるようになっています。文科省のホームページからダウンロードもできますので、ぜひ活用してください。

久米　中学校でPTA活動をしていて感じるのは、保護者の教育に対する関心が小学校のときより低いことです。煮詰「めだかの学校」に「そっとのぞいてみてごらん」という歌詞がありますね。思春期の中学生だからこそ、親には、そっと見守っていてほしいのではないでしょうか。「今日、何があった？」と聞くと「ない」と答える子でも「嫌なことあった？」と聞くと話しだすことがあります。普段から家族との会話を心掛け、いざというとき相談を持ち掛けられるような信頼関係を築きたいですね。

片岡　京都市携帯電話市民インストラクターは、ネット・ケータイに潜む危険性や依存性などの問題点を調べ、共に考える時間を設け、その必要性を再検討していただくために活動をしています。

ケータイによって子どものコミュニケーション事情は大きく変わりました。ケータイを持っていない子を仲間はずれにし、ストレス発散のため友達を傷つけるような書き込みをする「いじめ」も増えています。ケータイが子どもたちの心の成長に悪影響を与えないか心配です。

尾花　子どもの環境を整えるには、家庭、地域、学校が協力することが大切です。地域や学校から発信することで、マナーやモラルが、子どもから親へと伝わることもあります。

富樫　「お父さん、お母さんが一番おまえのこと心配しているんやで」というメッセージを常に子どもに投げかけることですよね。

ルールやマナーも大切ですが、使い始めは誰でも失敗するものです。アドレスや画像をクリックしただけでお金を請求されるワンクリック詐欺など、子どもでは対処しきれない問題もあります。隠したり友達に相談したりせず、大人に助けを求める勇気が必要です。子どもは失敗を繰り返しながら自立心を身に付けていくのではないでしょうか。

片岡　ネットやケータイは高校生、大学生になってからでも覚えられます。せめて小中学生のうちは、友達と一緒に遊んだり運動をしたりといった直接的な体験を重ねてほしい。保護者に対して、小中学生にケータイは必要ありませんよと訴えていくと同時に、子どもに対しては、地域ぐるみで、いつも大人が見守っているよという姿勢を見せていきたいと考えています。

久米　学校のきまりや社会のルールを守らない子どもが増えているようです。京都市は子どもを取り巻く大人の行動規範として平成19年に「子どもを共に育む京都市民憲章」を制定しました。今年4月には「子どもを共に育む京都市民憲章の実践の推進に関する条例」もスタートしています。「子は親の背中を見て育つ」ということを私たちは忘れてはいけません。

尾花　大人が一方的に禁止したり叱ったりすれば、子どもは内緒で行動するようになります。子どもの声にも耳を傾け、なぜいけないのか子どもに考えさせれば判断力が養われます。

今はケータイを通じて数多くの子どもがネットでつながっています。持たせなければ危険が回避できるというわけではありません。また、18歳になって初めてケータイを持った子が、大きな被害にあうという事例も見られます。現実に即したルールを作り、それを守りながら体験させることも大切な学びだと思います。

曽我　東日本大震災では通信手段としてネットが大きな役割を果たしました。防犯・防災のため子どもにケータイを持たせたいと考える親も増えています。ケータイがらみのトラブルを回避することも重要ですが、それだけに目を奪われていると、新たな機器への対応で後れを取りかねません。子どもたちを有害な環境から守り育てることがPTAの課題だということを今日は再認識できたのではないでしょうか。

子どもに考えさせることが大切
親子で相談してルールを決めて
持たせる前に親子で話し合いを
いつでも相談できる信頼関係を
子ども時代は直接体験を重ねて
道具を賢く使うための教育を！

パネリスト

久米功一氏
京都市立中学校PTA連絡協議会 会長
片岡志保氏
京都市携帯電話市民インストラクター

コーディネーター

曽我邦彦氏
（社）日本PTA全国協議会 顧問（前会長）

1億人のネット宣言 もっとグッドネット

子どもたちの未来につながるネット環境をみんなで実現するための合言葉「もっとグッドネット」には3つの目標があります。
ネットでも思いやりを持って！
社会のルールとマナーを守って！
賢く使って、よりよいコミュニケーションを！

ネットやケータイは、すばらしい可能性をもつ反面、不適切に利用することもできます。とはいえ、生活や仕事にも不可欠な時代、子どもたちが賢く使いこなす力を身につける必要があります。

「青少年インターネット環境整備法」では、子どもの利用状況の適切な把握や、フィルタリングなどによる利用環境づくりが求められています。ルールを決めて利用させるのはもちろん、成長に応じて少しずつ利用範囲を広げてあげることが大切です。まずは、フィルタリング、迷惑メール防止機能、利用時間制限等のサービスについて正しく理解するように努めましょう。

〈安心ネットづくり促進協議会　http://good-net.jp〉 ICT関連に限らず様々な業種の企業・団体、有識者、教育関係者、PTA等、約200の相談が一丸となって「もっとグッドネット」を推進する非営利団体です。研修会等、地域の普及啓発活動も応援しています。くご相談・お問い合わせ〉anshin-net@fmmc.or.jp

企画・制作＝京都新聞COM

2011年12月27日付け　京都新聞　25面　掲載